

## 第1回県立高等学校改革懇談会（船引・小野）【船引】記録

日時 令和4年7月19日（火）14時00分～15時30分  
会場 船引高等学校 大会議室  
出席者 別紙一覧参照  
傍聴者 8名

進行

（1）開会

（2）県教育長挨拶

県教育長の大沼でございます。皆さまにおかれましては、日ごろより本県教育に多大なる御理解と御協力を頂き、感謝申し上げます。

ただ今、改革懇談委員の委嘱状を交付させていただきました。白石高司田村市長をはじめ皆様には御多用中にもかかわらず委員をお引き受けいただき、また本日の改革懇談会へ御出席を頂きましたこと、心より御礼申し上げます。

さて、県教育委員会におきましては各界の代表の方々からなる、学校教育審議会の答申をもとに、平成30年5月に、今後10年間の県立高等学校改革の方向性を示す長期計画として「県立高等学校改革基本計画」を策定いたしました。

この中では、少子化により県内の中学校卒業生数が、10年間で約5300人減少するという状況を踏まえ、3学級以下の学校については統合する方針を示すとともに、高等学校に求められる学びの在り方や地域における役割などを踏まえ、学校の位置づけや特色を明確にし、魅力ある高等学校づくりを進めることとしております。

このため基本計画のもとに現在進めております前期実施計画期間中の成果や課題、そして昨年12月に策定いたしました第7次福島県総合教育計画を踏まえ、令和6年度から10年度までの具体的な取組を示すものとして、後期実施計画を今年の1月に策定いたしました。

後期計画の中でこの地域におきましては、船引高等学校と小野高等学校を統合し、生徒の幅広い学習ニーズに対応した教育活動を充実させ、両地域をフィールドとした探究活動により大学進学から就職まで幅広い進路希望が実現できる、新たな高校を設置する方針をお示しいたしました。

船引高等学校においては創立74年、そして小野高等学校においては創立80年、これまで地域を支える多くの有為な人材を輩出してまいりました。

しかしながら、将来を担う子どもたちに、より良い学びの環境を継続的に提供することが、県としての責務であると判断し、両校を統合する方向性をお示したところでございます。

本日は、田村市の地域の有識者の皆様、そして学校関係者の皆様にお集まりいただき、後期実施計画策定の経緯、そして新たな学校の在り方等について御説明させていただいた上で、皆様から御意見を頂きながら、今後の教育環境についてともに考えてまいりたいと思っております。

どうぞ忌憚のない御意見を賜りますようお願い申し上げます。挨拶とさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

(3) 説明(担当)

(4) 懇談(菅野改革監)

### <懇談>

#### 【菅野崇】(県立高校改革監)

ここからは、委員の皆様からの意見を伺う。合わせて、今の説明に対する質問も受け付ける。では、まず、白石市長から発言いただきたい。

#### 【白石高司】(田村市長)

いろいろ御説明を頂き、感謝する。以前、企業側にいて募集していた時は、イメージとして「この学校を出ると、こんな事が出来るのだろう」と予測することができていたのである。それで、募集する場合「こういう事ができる人が欲しい」としていたので、例えば、工業高校の機械科とか電子科の生徒を中心に集めていた。ただ、これからは、「ある程度わかっている」という人が必要になってくると思う。確かに、今の総合学科でも良いのかもしれないが、できれば「学科」にこだわった方が良いのではないかと思っている。小野・船引両校の進路を見ると、およそ半数が就職である。そうなると、企業側は「この学校を出ると、このような事ができる」ということを理解している方が良いと思う。ある時「今、世の中を見ると、昔からあった職業が、どんどん無くなってきている。それで『何でも屋』から『専門職』という傾向になってきている。例えば、ラーメン屋やそば屋あるいはスパゲッティ屋、カレー屋などと、飲食店でも、専門店が増えてきている。」という話を聞いた。このような傾向になってきているのであれば、人材は、専門的な部分がある程度特定した方が、将来的には良いのではないかと思っている。これは、大学であっても、学部を見れば、どのような事ができるのか、ある程度は分かる。だから、船引高校で「総合学科」と言われても、なかなかピンと来ない。それならば、むしろ、「工業学科の〇〇」「農業学科の〇〇」「商業学科の〇〇」とした方が、魅力があるような気がする。これは、子どもたちにとっても、「自分はこれを専門にしている」という事になれば、将来、社会に出てから、それが、一つの拠り所になってくるような気がするのである。

#### 【中野正人】(県立高校改革室長)

御意見、感謝する。市長の仰る通り「総合学科というのは、どういう事を学ぶのか見えにくい。」という部分はあると思う。それは、「それぞれの子どもが、自分の進路希望に合わせて科目を選択することができる」ということの裏返しなのかと思っている。小野高校の総合学科について、「文理総合」系列は、進学に特化した系列であると捉えていただきたい。「産業技術」は農業に特化した系列、「ビジネス」は商業系列の資格取得を目指した系列、「福祉教養」は福祉や保育に関する系列となる。統合校においては、いわゆるコース制に近いような系列の形をとっていきたいと考える。市長の「商業・工業・農業」などと、専門の学科名を前面に出した方が、「この人は、どういった事ができるのか」との御意見の方が分かりやすくなると思う。ただ、私たちとしては、生徒の多様なニーズに答えるべく「総合学科」という形にして、外向けには、先程出てきた系列を、大きくお知らせしていきたいと考える。

### 【菅野崇】（県立高校改革監）

只今は、市長より統合校に関する御意見を頂いた。では、次に、地域の方の御意見を伺いたい。地元からおいでの佐藤さんに発言いただきたい。

### 【佐藤利男】（地元有識者）

統合は避けて通れないという話で、人はどんな学びをしても就職しお金を稼がなければ生きていけないので、1次産業の農業をやるにしても経営を起こす「起業」について学んでいくことが重要だと考える。仕事は様々な分野があるが、田舎であってもパソコンがあればビジネスが成り立つようになってきており、いずれは、経営者的な感覚で、仕事に取り組むような方向になっていくと思う。田村と小野は農業関係の仕事が多く、業界も限られているが、「自分はどう生きていけば良いのか」というところを気付かせて、就職するにしても経営の学びは最低限必要だと考える。地元の企業と職場体験を通じて、将来の仕事を選択する時の一つの目安にしてもらいたい。これからは、グローバル化の時代なので、「自分はここで一旗揚げろ」と気概を持てるような学校にしてもらいたい。農業は「新たな農業」として見直される時代になってきている。起業家的な感覚だと成り立つのだと思う。目立つ学校をつくるのであれば、例えば英会話で日本一を目指すのも面白いし、船引の若草学園のように外国人の先生が多くいるのも面白い。ただ、先程も申し上げたとおり、自分はどう生きていけば良いのかということが最も重要だと考える。

### 【中野正人】（県立高校改革室長）

「自分は、将来、どのように生きていくのか」という大きなテーマは、我々も重要であると考え。大学進学する生徒は、もちろんだが、高校卒業後、地元で、地域を支える人材として働こうと考える子どもたちに対しても「自分は、どうやって、社会に貢献しながら生きていけば良いのか」を、根本として伝えていきたいと考える。そして、先程、話があったが、子どもたちが、地域の大人の方々と触れ合いながら、多様なものの見方や考え方を身に付けた人材に育って成長してもらいたいと、我々は考える。それと同時に、魅力ある学校にしていきたいと思う。

### 【安瀬一夫】（地元有識者）

市長さんと佐藤さんのお話があって、2つの面をお話されたと感じた。それは「社会に出るための教育選択」と「子どもたちの成長をアシストする」という2点である。その2点を両輪として、上手く組み合わせていくのが大事だと思う。その中で、やはり、総合学科ということになれば、どれだけ魅力的な系列や科目を作るかということになると思う。それで、先程から「地域性」という言葉が出ている。やはり、この「地域」というのが大事なものになってくるのだと思う。そうすると、田村地区の資源の活用が大切なことになってくると思う。それから、田村地区には、非常に優秀な方が住んでいる。そういった優秀な人を活用する。例えば、ボランティア的な形で、地域の人に入ってもらい、指導の一端を担っていただく。それで、最近の子どもたちは、性格が非常に優しく、他人への思いやりがある。しかし、その一方で、心が弱くなってきており、コミュニケーション能力に難がある。そこで、そういったコミュニケーション能力を育てるための、試験の科目の設定や、それに対応すべく、自分に自信を持つための自己表現能力を高める科目を設定すれば、子どもたちが成長していくことのサポートにつながるのではないかと思う。実際、いわき総合高校やふたば未来学園が演劇やダンスをやっている。一見、実学と結びつかないようなものであっても、基礎の部分に、そのようなものがあると、これからの社会に対応ができるようになると思うので、そのような資質を育てる科目を導入してもらえれば、ありがたい。

**【中野正人】（県立高校改革室長）**

いかに魅力ある系列や科目をおくかという点については、両校の先生と、一緒にじっくり検討して、子どもたちのニーズだけではなく、地域の人たちの意見も取り入れながら、考えていきたいと思っている。それから、コミュニケーション能力や自己表現を伸ばす教育活動については、昨今の教育現場で求められている。「自己肯定感」を持てるような教育、また「自己啓発」についても、今後、検討しながら、魅力ある学校づくりを進めていきたいと思う。

**【菅野崇】（県立高校改革監）**

ここまで「統合校の特色」、あるいは「地域との関わり」などの御意見を伺った。そのような統合校と地域の関わりや学ぶべき内容という点で御意見を頂きたい。

**【飯村新市】（田村市教育委員会教育長）**

統合校の特色化をどのように図るかということで、3年間の学びを充実させるというのは当然なのだろうと思うが、今までの生徒たちや、自分の経験を考えると、高校の3年間で学べる事には限りがあると思う。だから、例えば、「産業技術の系列で3年間学んだ上で、地元の企業に就職した。でも、働いているうちに、どうしても財務会計が必要と感じて、郡山の専門学校に通う」といったようなことがある。もし、統合校に1年間だけ、そういう、高校生と一緒に学べる「夜間中学のような、学び直しができるシステム」を作ることが可能であれば、今までにない、画期的な総合学科の学校ができると思う。これは、総合学科だから、可能であるように思う。例えば、普通科の学校であれば、学び直しは不可能だと思う。でも、3年間で学べなかった系列の学習を、1年間、受けられるシステムが導入されるとなれば、これから統合しても、少子化で、学級数や定員が担保できるかどうか分からない状況になっても、そのような人材で埋め合わせしていけるのではないかと思ったのである。もう一つ、統合後には、いろいろな系列がある。そのような中で、授業は、今ある船引高校の施設だけでやっていくのか。あるいは、施設や教室を増設して対応していくのか。そこのところを教えてください。

**【中野正人】（県立高校改革室長）**

まず、お話の前半に出てきた部分については、今後、それができるかどうかという可能性も含めて、検討していきたいと思う。次に、施設の増設についてだが、これから、どのような施設が必要になるか、両校の先生方と協議しながら、具体的な話を詰めていき、それによって、例えば、パソコン室が必要になれば増設し、農業や工業の実習のために必要な施設を作るとなれば、どの程度の規模で、どのくらいの数が必要なのか、検証していこうと思う。いずれにしても、今ある施設だけで、対応していくということはないと思う。

**【飯村新市】（田村市教育委員会教育長）**

例えば、小名浜海星高校にある水産科や、介護や福祉といった専門的な資格を取得するような系列も含めて、可能性があるかどうか、考える材料の一つとして検討していきたい。

**【菅野崇】（県立高校改革監）**

先程、「最近のお子さんは、コミュニケーションが苦手である」という話が出たが、最近のお子さんから感じる事や、最近のお子さんが興味を持っている事などを教えていただきたい。

### 【助川徹】（船引中学校校長）

自己表現については、やはり、課題があるような状態である。あらゆる場面を設定して、自己表現できるようになるよう、努力をしている。しかし、ここ数年においては、課題を残すような状況になっている。

### 【菅野崇】（県立高校改革監）

何か、このような点で、感じることはあるか。高校の PTA 会長さんは、お子さんを育てているところだが、統合校に対するお子さんの反応などを聞かせていただきたい。

### 【鎌田俊寿】（船引高等学校 PTA 会長）

まず、保護者の立場として、高校の統合ということについては、「学校の姿が変わっていくのか」と感じながら、今後の動向を見ている状況である。船引高校に子どもを預けて、3年間学んで、そこから、就職あるいは進学で、世の中に出ていく時、何が待っているか、想像できない。例えば、地元の企業に子どもたちが職場体験をして、「こういう所で働きたい」となるのは、良い事だと思う。これが、統合すれば、田村市に加えて、田村郡の小野町から、三春まで広範囲になる。小野や三春にも工場は沢山あって、その工場の人たちが、船引高校の卒業生だということで、採用してもらって、そこで生活基盤を作って、伴侶とめぐり逢い、家庭を築いて、地域が栄えるとなるのが、本来の流れだと思う。そういう夢を持てるような学校であれば、子どもたちが喜んで来ると思う。しかし、地元の友達と楽しく生活できるようなフィールドが、どんどん都市部に行ってしまうたり、生産する工場や会社が海外に進出してしまったりすれば、私たちは、何をしたら暮らせば良いのかということになる。そうなれば、高校の3年間の生活は、難しいものになってしまうかもしれない。私たちが学生の頃は、学校を卒業して、勤めて、税金を払い、地元の役に立って、なおかつ、自分の幸せを築いていくということを望んでいたと思う。それに対して、船引高校が統合したら、夢を見つけられるような3年間を過ごして、次のステップに行く時、地元の企業に行ける手段や方法があるのか。私の知り合いは、次のステップということで、郡山市の専門学校へ進学し、その後、福島大学にも行った。船引高校で、一般の人たちが勉強して資格を取ることができるになれば、もっと違った未来が拓けてくるのではないかと感じた。保護者が進路先を選ぶ時「仕方ないから」などという「消去法」で選ぶのではなく「ぜひ、あの高校に行って、新しいスタートを切らせてあげたい」と親も期待できるようなものにしていただければ、嬉しく思う。

### 【中野正人】（県立高校改革室長）

今日、説明した内容は、小野と船引が統合して、統合校では、今現在、このような事をやると考えているというところまでしか、説明していない。そのため、非常に大まかな説明であり、今、「統合校の内容が見えない」との PTA 会長の御意見は当然のことである。それで、「統合校は総合学科とする」と説明したが、1年生の段階で、「産業社会と人間」という履修科目がある。これは、いわば「自分探し」の科目であり、自分が将来、どういった事をしていけば良いのか考える授業になる。それに基づき、「自分は、こういう人生を歩んでいきたい。そのためには、大学に行って勉強しなければならない」ことになれば、「文理総合」の系列に進んでもらえば良いと思う。一方で「自分は、地元企業に就職し、働いていきたい」と思い立ったならば、就職に役立つような資格を取得することを目指してもらおう。さらに、

「高校3年間の勉強だけでは、学びが足りない、資格が取れない」となったら、大学や専門学校を目指してもらおうというのが、今までの流れであったと思う。今、お話をさせていただいた「どういう系列、教育内容になるのか。」というのは、これからの話である。今後、これらについては、しっかりと整備し、受験する中学生にしっかりと伝え、中学生の保護者の方に御理解いただいて、統合校を選んでもらえるようにしていきたいと思う。

### 【菅野崇】（県立高校改革監）

今、「統合校で学んだら、どのような事が身に付くのか」といった期待感が持たれるような学校が望まれているという話が出た。また、「地域の方々と関わりを持ち、将来、地域に役立つような人になりたい」という目標が実現できる学校であってほしいという話も出た。今、船引高校で「デュアルシステム」という、地域と関わりを持った学習を行っているが、そのような教育を通じて、猪狩校長は、どのように感じているか伺いたい。

### 【猪狩良一】（船引高校長）

実際にデュアルコースを選択している生徒は、そう多いわけではない。ただ、デュアルシステムでの2年間を通じて、週に1度、合計3つの会社で学ぶということは、社会人の方々と一緒になり、その会社の目標に向かい、自分は何ができるのかということを考える大きなきっかけになっているのではないかなと思う。それで、真摯な態度で働く社会人の皆さんの動きを見ながら、自分が高校生として、何を目標に生活していくのかということ、デュアル実習生が、それぞれ考えながら生活していると感じている。実際に、デュアルコースを体験した生徒たちは、他校の高校生と比べ、ひと皮向けた大人のような、ものの考え方が、少しではあるが、出来るようになってきており、将来的に、就職に直結する者もいれば、デュアルをやったことで、「もっと勉強したい」と考え、専門学校や大学を目指す生徒もいる。このような形の系列を残すことは、この地域にとっても重要な事だと考える。何より、地域の皆様の御理解があり、このシステムは成り立っているわけで、地域の皆様が、「船引高校の生徒を、みんなでバックアップして育てよう」という意識で協力してくださっていることから、生徒自身も、そういう中で少しずつ自信を付けながら、自分がこの田村地域でどのような貢献ができるのかということを考えていけるようになってきているのではないかなと思っている。個人的な意見として、系列の中に、このデュアルは残してほしいと思っている。もっとも、県内で、このデュアルシステムを導入している学校は、ほんの少数なので、重要な取組の一つであると考えている。

### 【中野正人】（県立高校改革室長）

デュアルシステムについては、我々が改革計画を立てた当初から、学校や自治体から「継承してもらいたい」という声があり、両校の教育内容検討委員会で、継続を進めていきたいと考えている。

### 【菅野崇】（県立高校改革監）

「地域のバックアップによって、良い学びを得ることができている」という話があった。これは、地域の方々に加えて、同窓会の存在も大きく、これまでの生徒の活躍を支えてきたと考えている。一方で、同窓会とすれば、学校の長い歴史を支えてきたので、この統合に対する考え方が、いろいろあると思うが、御意見を伺いたい。

### 【三輪幹治】（船引高校同窓会長）

私のように、地元で生まれて、ずっと地元で生きてきた人間にとっては、地元を支え、今後も地元を発展させてくれるような若者が、いなくならないでほしい。そして、今の船引高校、そして、新しくできる統合校の生徒たちには、今後の地域を支える人材になってほしいと思っている。それで、先程は、丁寧な説明をしていただいたわけだが、早速、心配な事が出てきた。それは入学者数のことだ。令和4年の入学者は、船引高校が「88名」、小野高校が「39名」である。これを合計すれば「127名」だが、（統合校が）令和8年開校とすれば、令和7年くらいまでに、いろいろな事が固まっていなくて、「127名」が、もっともっと少なくなってしまう、4クラス編成が、おぼつかない状況になってしまうのではないかと懸念する。そうすると、「魅力づくり」ということで、たとえ募集定員の「160人」にならなくても、入学しようとする中学生の皆さんが魅力を感じるようなことを検討していただきたいと思っている。

### 【中野正人】（県立高校改革室長）

先程、校長先生からあった「デュアルシステム」と合わせ、今後においては、「魅力ある学校づくり」を検討していきたいと考えている。

### 【白石高司】（田村市長）

いろいろ整理して、考えてみた。今、統合に向けての考え方について話をしているが、重要なポイントとして、「定員」が、その一つになると思う。県側としては「県立高校を新たに設置する」考えだと思う。つまり、「2校（小野・船引）を廃校して新しい学校を設置する」ことで、まず「学校として成立させる」ことが必要になってくる。それならば「志願者」が必要になる。ある意味、学校の運営というのは「経営」である。つまり「お客様が来る。そして、売り上げを上げる」と同じだ。そうすると、まず「その学校に行きたいと思うかどうか」になる。それで、看板というか、学校の中身について異論はない。要するに「分かりやすい学科が必要である。」ことを、私は、先程申し上げた。一説によると、「小野高校の人数が、年を追って徐々に減ってきたのは、農業科をなくしたからだ」という話が出ている。つまり明確な学科がなくなってきたということなのかもしれない。総合学科というのは、我々からすると、何となくイメージがつかない。だから、表現の方法をもう少し工夫していただき、「子どもにも親にも分かる学科」「こういうものを目指すならこの学科」というようなものにしていただきたい。令和3年、田村市と小野町で、中学を卒業した生徒は「362人」いた。そこから、「船引高校・小野高校」に入学した生徒は「127人」だ。つまり、3人に1人しか、「船引・小野」に行っていない。言い換えれば、選ばれていないのだ。だから、看板や学科・学部の表現を、もう少し考えるべきだと思う。小野高校は、総合学科でありながら、志願者が100人以下だ。だから、そこを、謙虚に受けとめ、これからは目指すところをはっきりさせた方が良くと思う。確かに「自分探し」も必要だと思う。でも、早くから目覚めていく生徒は、やはり、倍率が高くても、安積高校や安積黎明高校などに進学する。こちらは「3人に1人」しか来ていないのだ。それは、もったいない話なので、私は、362人全員が、ここで学べるような学校であれば良いと思う。進学を目指す子も、就職をする子も、あるいは農業をやる子も、全員、この学校で学んでいく。それが実現して初めて「総合高校」となるのではないかと思う。「総合大学」というのは、工学部、農学部、医学部など、全てがあって「総合大学」と呼ばれる。新たに作ろうとしている学校が、「いろいろな専門

の学科が揃う『総合高校』で、中身は、いろいろな学科に分かれている」ことになれば、志願者が多くなるような気がする。加えて、地域の特色を生かして、基幹産業である農業に特化させてみれば良いと思う。今、農業は「科学する農業」と言われており、例えば「温度管理」や「肥料」に関して、科学的な見地から勉強するようにしていく。それから、先程、佐藤さんが言ったように「〇〇円かけて、〇〇円の物を作ったら、こういう風に経費が掛かり、〇〇円の利益が出て、生活ができる」といった経営学のようなことが、一貫して3年間で教えることができ、子どもたちが社会に出て役立つようなことになれば、「総合高校」という、新たな高校ができるのではないかと思う。それは、クラス別ではなくて、選択別にして、それぞれの学科で取った単位については、卒業する時に、各学科で、大学でいう「学位」のようなものを与えるようにして、生徒が就職を希望した時に「私は、工業系のこのコースを学んできました」「私は商業系のコースで、パソコン技術と簿記を学びました」という証明になるものを作れば、採用する企業側も、募集しやすくなるのではないかと思う。規模の大きい話になってしまったが、是非、御検討願いたいと思う。よろしく願います。

**【中野正人】（県立高校改革室長）**

どのように伝えていけば、高校教育の中で、分かりやすい表現になるのか、研究して参りたいと思う。

**【菅野崇】（県立高校改革監）**

他の御意見を伺いたい。

**【鎌田俊寿】（船引高等学校 PTA 会長）**

統合することが分かっているながら、令和6年度・7年度、船引高校・小野高校に入学する子どもたちは、「それぞれの高校の生徒として入学して、それぞれの高校のカリキュラムを学んで卒業していきます。」と説明をしてもらったが、もし、その生徒たちの中で、「それでも、こっち（船引）に来て卒業したい」という人が出てきた場合は、それに対する方法論を考えなければならなくなると思う。新しくなるからといって、これから「尻すぼみ」になり、新しく看板を掲げた時に、誰も見てあげないということでは困ると思う。だから、先程、校長先生が仰っていた「デュアルシステム」など、今あるカリキュラムをブラッシュアップし、それでも選んでもらえるようにしておかないと、次に進めないし、新しい看板に変えても、難しい状況になるのではないかと思う。そこのところを検討していただき、加えて、新しい学校を受験できるような方法も検討していただきたいと思う。

**【中野正人】（県立高校改革室長）**

統合前、船引・小野、それぞれの高校を受験する中学生に対しては、その志を大切にしたいと思う。当然、「学びたい」という意欲を削ぐことだけは、決してないようにしたい。それぞれの高校へ入学した生徒は、それぞれの高校のカリキュラムを学んでもらい、最終的には、統合校での卒業ということになるが、学びとしては、それぞれ、「志した学校の学びを全うする」ということにしていきたいと思う。

**【菅野崇】（県立高校改革監）**

統合直前のお子さんたちの学びのモチベーションは、本当に大事だと思う。一気に、統合したから変わるというのではなく、統合に向け、両校が魅力ある学びの環境を維持し、皆さんに選んでもらえるような学校である状態のまま、統合校に引き継いでいければと思う。そ



れでは最後に、県教育長から挨拶を頂く。

**【大沼博文】（県教育長）**

本日は、いろいろな御意見を頂き、感謝申し上げます。統合校の学校作りの在り方という、大きい枠組みから、教育の中身、さらには、2つの学校の在校生についてなど、様々な気づく視点を頂き、感謝申し上げます。今、頂いた御意見を踏まえ、協議しながら、統合校の方向性について具体的な検討を進めて参りたいと思う。今後、詳しい方向性については、次回の懇談会で、お示しできるように準備をしていきたいと思うので、今後ともよろしくお願ひしたい。

（5） 閉会